

薬乱防に燃える

サッポロシニアLC 幹事 L森 一男

① ナゼ、薬乱防教室の開催に情熱を燃やすか

- * ある小学校の6年生男子2人が「僕は、薬物を1回やろうと思っていました。森のおじさんの話を聞いてやめます」と、アンケートに書きました。子どもらが、薬物に異常なまでに関心を持ち、放置して置けないと強く思った。
- * 今期は、結成15周年でもあり、12の小・中学校で開催予定(前期は8校)。1300人の生徒が対象(資料代1人200円)。16校で講師。
- * 6年生の体育の授業に、薬物の項目があります。市内の全小学校200校で開催すべきと思う。

② 薬乱防教室開催校のアプローチ

- * 小生は、町内会の会長しており、校区の宮の森小に開催を要請。OK。
- * 開催校の校長、教頭に親しい学校を紹介して貰う。2校成功。
- * 春の人事異動先を調べ、開催していた校長、教頭に新たに直訴。2校成功
- * PTA会長、市議員、卒業生などの人脈を利用。
- * キャビネット事業のLQのWSに参加した教諭の学校に働き掛ける。1校。上野幌中学校はいかがですか。
- * 市教委は「部外の講師を招いて、子どもらに話を聞かせなさい」と指導しており、開催しやすい環境が出来ております。

③ 講話のシナリオ

- * 養成講座で配布される資料を基にまとめる。
- * 校長、教頭からは、「子どもらがいかに生きるべきか」を話して欲しいと、今春から強く要望あり。人生経験を基に、努力の大切さ、物事を肯定的に考える重要性、コミュニケーションの大切さを、今期から話している。

④ アンケートに礼状

- * 我がクラブ独自の手法だと思います。アンケートを書ってくれた全生徒に、アンケートの内容を盛り込みながら礼状を書く。コピーをして渡す。
- * 一日の出前講座だけでは、終わらせたくない。中学生や高校生になって、礼状を手にとって見れば、薬物の事を思い起こす。薬物が記憶の引き出しに入り、薬物への免疫力がつき、汚染される事はないと、信じる。